

趙長青团長以下5名

中国書法家協会代表団来日

仙台、東京、箱根、千葉へ

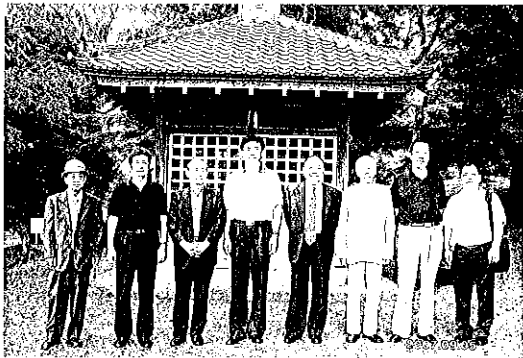
中国書法家協会代表団一行5名が、9月5日から5泊6日の日程で来日した。一行は仙台を訪問、東京での座談会、歓迎宴出席、東京国立博物館の見学、箱根を訪問、成田山新勝寺表敬訪問、成田山書道美術館見学。10日に成田空港より、金員元気に帰国した。

9月5日(水)

14時25分着予定のCA155便は、趙長青团長をはじめ5名の代表団を乗せ、予定通り仙台空港に降り立った。空港では星弘道事務局長、辻元大雲事務局次長、当連盟会員今野深泉氏、鹿倉事務員、そして日本側通訳・趙金城氏(イーストチャイナ)が出迎えた。また今野氏には、多賀城在住といつことで仙台の案内をご協力いただいた。

早速チャーターした専用バスに乗り込み、空港を後にする。バス乗車中に星事務局長より歓迎挨拶の後、両方の簡単な紹介をし、ながら一行は日本三古碑・多賀城碑(多賀城の南門跡のすぐ近くの古い覆屋の中に立つ。高さ196cm、最大幅92cm)を見学。

その後東北歴史博物館では旧石器時代から近現代までの東北の歴史を、時代別に9つのコーナーにわけて展示、また東北地方の特徴をよく示す3つの詳細コーナーも設け、あり館内の展示物をくまなく鑑賞。



日本三古碑・多賀城碑の前で

次に松島に到着。五大堂より日本三景の島々を一望し、徒歩で近くの瑞巖寺(慈覚大師円仁によって開創された奥州随一の禅寺で、伊達政宗公の菩提寺)へ。高木の杉林に囲まれ、静寂で塵一つない厳肅な趣の



日本三景・松島を背に

参道や苔むした洞窟と石像郡は大変満足いだけた様子。

9月6日(木)

台風9号が関東に近づいており、天候は

中国書法家協会代表団

(2007年度)

團長 趙長青

中国書法家協会
駐会副主席兼秘書長

副團長 陳永正

中国書法家協会
副主席

秘書長 蔡祥麟

同 理事

團員 翟万益

外連部主任
同 理事

團員 郭志鴻

同 弁公室秘書

全国美術表装師連合会

表装のことなら下記連合会加盟店へ

〈西日本〉

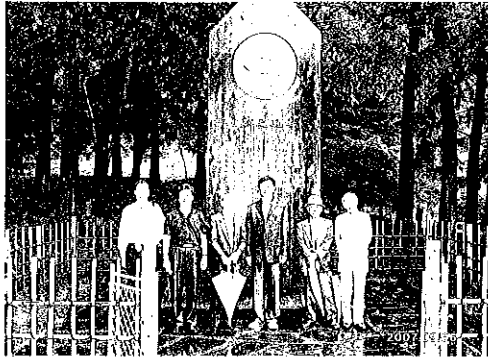
- 石津文浦堂
- 七五八二二三二八
- 奥田成文堂
- 七九八二三四五三
- 泰雅
- 八二二二二二六四
- 高瀬温古堂
- 七九八七七二五五八
- 玉木樂山堂
- 七八八五二七五九〇
- 中井清英堂
- 七五八二二二二六
- 中村太熙堂
- 九九二二五七二三四一
- 原汲古堂
- 七八三四二四八八〇
- 福井素風堂
- 七八二二二二二六一
- 前川静観堂
- 六六六六六六八八五
- 前川墨香堂
- 七二二九九二二二五
- みづつ
- 六六六七八九七七三

〈東日本〉

- 岩野祥雲堂
- 三三六六六六九四九
- 植木具店
- 四六八八二二二六八
- 岡忠具店
- 四七四八四八二二六
- 齋藤鳳扇堂
- 四七四八四八二二六
- 佐久間太熙堂
- 三三三三三三三三三
- 鈴木表具店
- 四四四四四四四四四
- 永山雄山堂
- 三三三三三三三三三
- 鯛子山榮光堂
- 三三三三三三三三三
- 湯山春峰堂
- 三三三三三三三三三

昨日と同様不安定。

午前中、仙台市博物館を見学。総合展示室Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと時代の流れにそって展示テーマを構成しており、Ⅰでは旧石器時代、室町時代、Ⅱでは江戸時代、Ⅲでは明治、昭和。他に東北の焼物・古人形、室町の浮世絵ケースに暮末・明治の錦絵、仙台藩の武器・武具、支倉常長と東北のキリシタンなどを鑑賞し、中庭の中国文学の父で思想家である魯迅像や魯迅の碑も鑑賞。続いて青葉城遺跡から仙台の町並みを一望。伊達政宗像の前で記念撮影。



魯迅の碑の前で

その後バスは仙台駅へ向かい、駅構内で昼食。仙台名物伊達の牛タンを堪能。台風に向かうかたちで心配をしたものの遅れることなく定時に東京駅に到着。ホームでは新井光風理事長がお出迎え。バスに乗り込み、一路宿舎となるグランドプリンスホテル赤坂へ。15時45分にホテルに到着し、団員5

名は小休憩。

16時半より同ホテル旧館・福の間にて、日中書法家座談会を開催。最近の書道事情、作品の制作や学術について、今後の小中学生の書写書道事情、日中交流についてなど話し弾み、内容の濃い有意義な座談会を行った(内容後掲)。その後18時よりサファリアホールにて、代表団歓迎祝賀宴会を開催した。

【出席者】

(敬称略)

中野 暁 日本中国文化交流協会常任理事 事務局長

理事長 新井光風

副理事長 大井錦亭 清水透石

常務理事 石飛博光 中村雲龍

理事 鈴木春朝 谷村雋堂

星 弘道 和中簡堂

監 事 百瀬大蕪

事務局次長 辻元大雲 (敬称略)

事務員2名を交えた16名が、代表団5名の米日を歓迎した。小宴ではあったが日中書道文化交流の更なる促進に話も弾み、また会中団長の趙長青先生が今回の訪日を七言絶句の詩で表現し、副団長の陳永正先生が詩吟で詠じた。その詩を紹介する。

訪日有感

今 訪 扶 桑 正 秋 季

蒙 蒙 細 雨 添 詩 意

举 杯 暢 飲 話 書 道

明 朝 北 京 再 相 聚

話は尽きないまま和やかな裡に会は終了した。



代表団歓迎祝賀宴会

9月7日(金)

台風の影響が少し残り雨の中、皇居の二重橋で記念撮影、上野の東京国立博物館を見学。列品室長の富田 淳氏のご配慮により東洋館の書道展示物をくまなく鑑賞した。特に米芈の虹泉詩巻は庄巻。跋文の元好門の書は他に残っておらず強い興味を惹いた。平成館では京都五山美術品を見て回る。続いて一行は浅草の浅草寺を訪問。

昼食は毎日書道会の招待を受け、千代田区竹橋パレスサイドビル9階のアラスカへ。毎日書道会寺田専務理事はじめ稲村雲洞、大井錦亭、石飛博光、關正人、恩地春洋らの先生方、他役員多数の歓迎を受ける。

お土産を求めに有楽町のビックカメラ(電気店)、銀座和光、三越を回り、後一行は午後17時20分中華人民共和国駐日本国大使館の招待を受け大使館へ。

御 表 装

佐久間太熙堂

〒111-0042 東京都台東区寿1-18-10
電話 (3844) 1353 (代表)

美 術 表 装

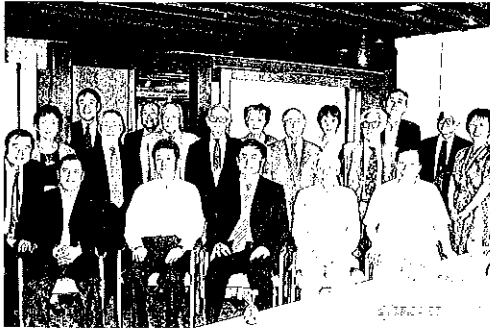
岩野祥雲堂

〒134-0081 東京都江戸川区北葛西1-11-4
電話 (3686) 1949 (代表)

装 御 表 装
屏 貸 額 貸 額
風 貸 用 會 展
受 引 出 入 搬

龍山雄山堂

東京都台東区橋場2の13の17
電話 (3872) 4024・8425

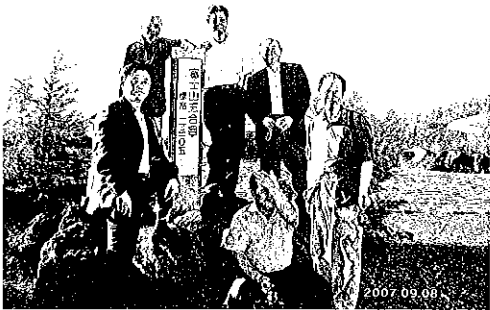


毎日書道会主催歓迎宴



皇居・二重橋を背に

9月8日(土)
朝、ホテルには辻元事務局次長がお出迎え。早速バスに乗り込み芦ノ湖へ。桃源台まで約30分の遊覧船。少し肌寒く雲がかかっており富士山の顔を拝めない遊覧には



富士山五合目にて



成川美術館にて

なりましたが、一行には満足いただけただけの様子。昼食後芦ノ湖と富士の日本の絶景が眺められる成川美術館にて平山郁夫、加山又造先生らの収蔵の名品や現代日本画を参観する。

9月9日(日)
朝、急遽河口湖オルゴールの森で世界最大規模の豪華な自動ダンスオルガンが奏でる音楽や、富士と河口湖を背にした素晴らしい景観に魅了された。
そして代表団側の希望のひとつでもある大本山成田山新勝寺を訪問する。本堂やその周辺を案内していただいた。光輪閣大玄関では山崎照義寺務長、成田山全国競書大会実行委員会事務局係長飯野美智子氏、同じく事務局の中村照丸氏らのお出迎えを受け、別室の貴賓洋間へ。成田山新勝寺橋本照稔貫首宛下、山崎寺務長、白鳥照脊部長、当連盟から清水透石副理事長らと面談。
18時より場所を成田ビューホテルへ移し、成田山主催の歓迎宴が開かれた。橋本貫首宛下をはじめ、山崎寺務長、白鳥部長、

参観後、午後4時40分富士山5合目(標高2305m)へ到着。富士山大社小御岳神社で参拝をし、雲を下に覗きながら山頂を背景に記念撮影。宿泊先の河口湖温泉郷ロイヤルホテル河口湖へ。台風9号の影響で何箇所かの土砂崩れにより道路が通行止めになっていたが、ほぼ予定通りにスケジュールをこなした。途中駅に立寄りここで一口同行していただいた辻元事務局次長がお別れ。一行は終日細かな配慮に感謝。再会を期して硬い握手を交わす。
天然温泉に夕食前、夕食後、翌朝と3度温泉に入り、旅の疲れを癒す。夕食後、夜の河口湖を15分ほど散策。

展覧会用貸額・屏風

表 装

湯山峰堂

〒105-0014 東京都港区芝1丁目12番9号
電話 03(3451)6002 FAX 03(3452)4028

筆墨硯 中国文房四宝 用具から表装まで...

株式会社 寶研堂

〒111-0042
東京都台東区寿4-1-11
TEL03-3844-2976 FAX03-3844-1387

華匠平安堂

精良筆墨硯紙

〒102-0074 東京都千代田区九段南2-3-25
03(3262)3621(代表)

九段下駅2番出口より
徒歩5分

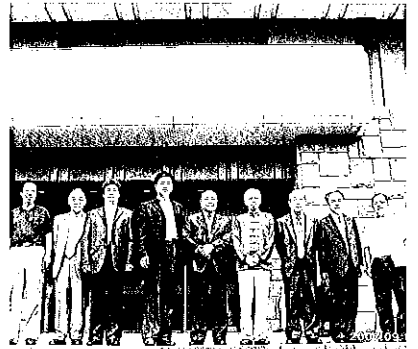
東 西 緑
新 宿 線
地下鉄 半蔵門線

書道文化研究家西嶋慎一氏、清水副理事長、有岡鄭康氏、谷村鶴堂氏ら多数の歓待を受ける。日本最後の夜ということも盛会裡に終了した。

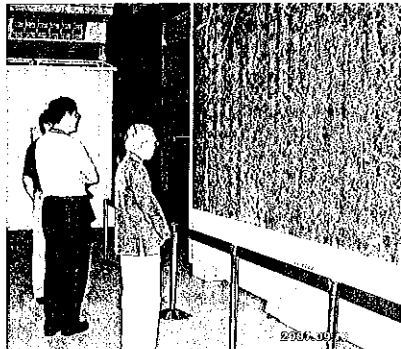


成田山貫首猊下と接見

9月10日(月)
午後帰国のため、一行は午前中成田山書道美術館を見学。美術館には星弘道事務局長がお出迎えし、正面にある「紀泰山銘」の拓本、常設展や企画展の「近代文学の至宝 永遠(とこ)のいのちを刻む」展、中国当代書法家献書記念碑などを鑑賞し、ご好意により昼食(精進料理)をまご馳走になる。その後成田空港へ向かうバスの中、見送りまで同行していただいた成田山側の飯野氏、中村氏、当連盟の星事務局長、鹿倉、通訳の池、趙各氏に一行より温かいお礼の言葉をいただき、6氏の見送りを受けながらCA926便で帰国すべく、一行は搭乗口へ消えていった。



成田山書道美術館の前で



「紀泰山銘」の拓本を見学

今回の中書協代表団を招聘するにあたり、訪問先の美術館や書道関係業者様、また星事務局長、辻元事務局次長をはじめとして同行していただいた各氏、そして連盟役員ならびに会員各位より、絶大なるご理解、ご協力をいただいた。今回の交流が、日中書道交流の更なる深まりの一助となつたことを確信いたし、皆様には紙面をお借りして厚くお礼申し上げます(次第である)。

(事務局・鹿倉記)

日中書法家座談会

9月6日、中国書法家協会の訪日団5名と当連盟理事長、副理事長により座談会が催された。星事務局長の司会に始まり、約1時間半にわたり中国書法家協会や中国書道界の現状や書道教育などについてお話を伺った。

なお、日本側として新井理事長はじめ大井、清水両副理事長からも当連盟の意義や活動内容等のお話をさせていただきましたが、皆さんも十分ご承知のことでありますし、紙面の都合上、省略させていただきます。

一 中国書法家協会の現況

中国書法家協会は、1981年5月頃成立され、今年で26年の歴史があります。組織構成は最高顧問1名(沈鵬氏)、主席団15名、理事は150名で構成されており、

今回の訪日団の中では陳永正副団長が広東省の主席、私(趙長青団長)は駐会の副主席です。また蔡、翟の両氏は当協会の理事であり、会員数は全国で9千から1万人くらいになります。

協会設立後、様々な形で活動してきており、協会の努力のもとで各地の政府の支持を得、会員各自の努力と積極的な参加によつて現在の書道ブームがおこりました。

また中国の創作、学術など書法を更に発展、普及させるために、次の二つの展示を行なっています。一つは蘭亭展で国家許可の最高の賞でもある蘭亭賞を設けてあります。この展示の目的は絶品と優れた人材を育成するためのものです。今までに青島、安徽省の合肥で2回開催しました。

もう一つは国展です。今年で第9回となり、12月に広東省で行なう予定です。昨年

の開幕式はとても盛大に行なわれ、授賞式の様子も全国に放映され多大なる影響をもたらしました。今回の第9回展も書道界において、とても注目されています。

二 国展を蘭亭展の違いやその他の活動について

今挙げた二つの展覧会の異なる点を説明します。国展は書家、愛好家の方々に対して、また、蘭亭展は中国書法家協会会員向けの展覧会です。よつて国展は書家、並びに書を愛好する方々まで幅広く注目されており、今までに無い規模で行なわれ、大変意味深いものです。

以上の二つの展覧会以外にも専門的な活動を行なっています。例えば今年の5月に当団の篆刻展を行ないました。同時に草、行、女流、老年、西部などの展示会を行なっています。

目的としては、まずはじめの草、行の展示会ですが、草書や行書を書体別で展示することにより、5つの書体各々を発展させる目的。次の女流、老年は現在の書道界で

一番関心を持っており、また層が厚いという理由で開催しております。最後に西部を中心とした連合で展示会を開催する理由は中国の経済発展にともない各区域によって書道の発展、進行具合に格差が生じました。中部の山東、南部の広東、華南、東の浙江省、江蘇省が経済の発展にともなう書道も発展し、今では書道の大省となっております。このような区域とのアンバランスをなくすために西部区域に対して優遇政策をとっています。それによって、発展している省の水準に追いつく努力をしているのです。

三 学術について

学術については、協会は20年の発展方針を出しています。学術の建設と研究を提唱されています。書道は一つの芸術でありますが、これからは理論的な部分を重視しなければならぬと思います。先程の蘭亭展や国展において理論賞を設けています。学術と理論を一体とするのが目的であります。これと同時に学術の研究会は山東省で開催今年で7回目となり、成果も挙げられています。

四 今後の青少年の書道教育について

今の子供は字を筆で書くことがすくなくなくなりました。その原因としてワープロやパソコンの流出増加にともない手書き文字がすくなくなることが挙げられます。それを今後どういう風に次の世代に伝承しながら、書道を高揚して発展させるかというこ

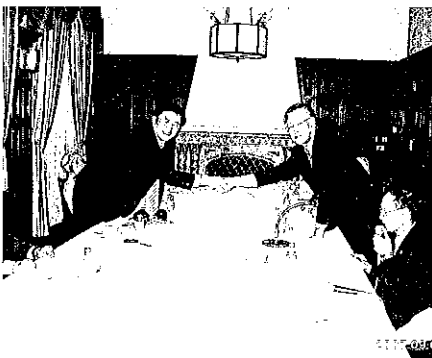
とが重大な課題となっており、その課題を解決する策として、子供の時期から書道に興味を持たせる教育を重視させております。今年、中国の寧夏で全国の小中学生を対象に初めて国家教育部（日本で言えば文部科学省）と中国教育学会の共催で「書道節（お祭り）」を大々的に開催しました。盛大な開幕式には全国から子供たちをはじめ先生方まで大勢の方々が参加しました。このような活動をこれから継続的に続け、その活動が拡大することにより、書道を正式に学校教育の科目として取り入れて貰えるように努力しております。そして、現在広東省では正式に小中学校の科目に取り入れられモデル地区に採用されております。また書道に関係する言葉として「蘭亭」を奨励して蘭亭小学校、蘭亭中学校の建設にも乗り上げております。

五 現在中国で日常よく使われている簡略体

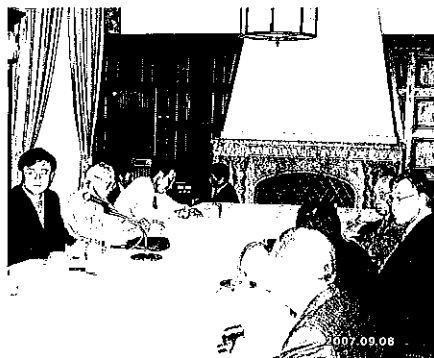
が、いままでどう教育に影響をもたらしてきたかについて

古典文字の中には篆書、隸書、草書、行書、楷書とあり、繁体字（省略されて無い文字。中国では止体字とも言われています）が使われております。簡略字の中には以前から簡略されていた字もありますし、70年代、80年代においては2回に分けて大々的な簡略が進んだ時がありました。字の歴史はこれまで様々な発展を迎え、簡略字→繁体字→簡略字というような繰り返しを行なってきております。現在文字は二つに分かれています。一つは古字と言います。唐

宋明清から使われてきた文字です。もう一つは現在使われている簡略されている文字であります。書道界では普通簡略されていない繁体字を使っておりますが、現代では多くの若い人にも書法に関心を持ってもらうための簡略字を使った書も奨励しております。



更なる深い友好を誓って



日中書法家座談会風景

●少数の書作品のみならず、篆刻・刻字の作品創りに必携。

少字墨場必携

清水光洋編

菊判・680頁●5670円

中国の古典及び仏典より、二字から十字まで三七〇〇余の名句を精選収録した墨場必携。字数によって分類し、句ごとに原文・読み下し文・大意を掲載する。少数の書や篆刻・刻字に必備の一冊。巻末には出典の「人名解説・書名解説」と「総画索引」を付す。



二玄社

〒113-0021 東京都文京区本駒込6-2-1 Tel.03-5395-0511 Fax.03-5395-0515 http://nigensha.co.jp (価格税込)